

平成28年度 学校評価報告書（最終評価）

学校名：県立逗子高等学校

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (9月20日実施)	総合評価(9月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○生徒の多様性(ダイバーシティ)を尊重し、個性や能力を伸ばす教育課程を編成する。 ○生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を実現させる。 ○生徒の主体的な学習を充実させ、学力を育成する。 ○授業改善の取り組みを充実させる。 ○高大の接続を意識した高大連携を模索し、新テストに対応する。	○基礎基本から発展的内容まで共通性と多様性が調和した教育課程を編成する。 ○鍛え伸ばす学習指導により、高い志望を実現する。 ○プレテストに対応できるよう課題を整理し、実施に向け具体策を取りまとめる。	(1) 基礎基本から発展的内容及び、進路指導とリンクした教育課程の整備と検証を行う。 (2) 実践的な学力のステップアップに向けて、授業の充実改善を進める。 (3) 夏期講習や補習を通して苦手科目の克服や得意科目の学力向上を図る。 (4) アクティブラーニングの研修と授業の充実を図る。	(1) 生徒が進路実現のために選択しやすい教育課程の整備と検証ができたか。 (2) 授業改善を進めることができたか。 (3) 夏期講習や補習で生徒の学力向上が図れたか。 (4) 各授業にアクティブラーニングが取り入れられたか。	(1) 1・2年生を対象に学習に関する通信を発行して進路実現に向けた学習の意識づけを図った。 (2) 「生徒による授業評価」全科目平均は、昨年度比+4.73ポイント上昇した。 (3) 朝や放課後に自主勉強会を開き、自学自習の習慣の定着を図った。	(1) 科目選択時の説明をより充実させ進路選択に対する認識をより深めさせる。 (2、4) 教科間連携や、異校種へのアクティブ・ラーニングに係る研究を推進する。 (3) 夏期講習の募集を早めに行って積極的な参加を促す。	(学校運営協議会委員) ○自学自習の定着は中高の連携が大切だと感じる。 ○文化祭等で生徒が「逗子高校が好きだ」と伝わってくる。	○丁寧な選択科目の説明により意識が高まった。 ○生徒参加型授業、アクティブ・ラーニングの取り組みにより生徒による授業評価上昇した。	○選択科目を考えることを進路活動の意識向上につなげる。 ○家庭学習など自学の意識向上の気持ちを育てる。
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	○組織的な相談体制を整備する。 ○生徒一人ひとりの個を捉えた支援体制を確立する。 ○グローバル社会を生きる能力の獲得と自立する力を育成する。	○一人ひとりへのきめ細かな指導を通じた社会性を育む学びを支援する。	(1) 組織的な相談・支援体制を整備し、生徒により添う丁寧な支援をする。 (2) 服装・頭髪等の身だしなみ、時間を大切にしている指導に組み込み、規範意識を高める。	(1) 相談・支援体制が整備され、職員間で情報の共有化をし、効果的な支援ができたか。 (2) 生徒の規範意識が高まったか。	(1) 学年会等での情報共有は行われており丁寧な支援を行っている。 (2) 定期的な服装・頭髪指導の効果が見られる。	(1) ケース会議の定期的な開催。 (2) 生徒の規範意識の醸成。	(学校運営協議会委員) ○生徒と部活で接していたが提出物その他、責任感が希薄な生徒がいる。 ○厳しい指導を近隣中学校も見習っている。	○服装、頭髪に乱れのある生徒がほとんどいない。 ○厳しい指導が地域でも評価されている。	○保護者との連携をより密に行う。 ○規範意識がさらに向上するように指導する。
3 進路指導・支援	○生徒が主体的に進路を選択できるような支援体制の確立。 ○シチズンシップ教育の取り組みを充実させ、生徒が積極的に社会参加するための能力を育む。	○将来を見通した自己のあり方を考え、実現に向けての様々な支援をし高い志望を実現させる。	(1) 進路指導グループと学年が連携し、組織的な面談指導を実施し、適切な進路目標の設定とその実現に向けた支援を行う。 (2) 進路ガイダンスを段階的に実施し生徒が主体的に進路を選択決定できる力を育て質の高い進路実現を図る。 (3) シチズンシップ教育は教科・グループ横断的に計画実行する	(1) 組織的な面談指導を実施し適切な進路目標を実現できたか。 (2) 進路ガイダンスが生徒の進路選択に役立ったか。 (3) シチズンシップ教育の効果として政治参加意識などが高まったか。	(1) 面談週間における各回のねらいと学年ごとの重点課題を設定し適切な指導を行うことができた。 (2) 3年間を見通した段階的な進路ガイダンスで実施できている。 (3) 市長他による政治参加に係る講演会や模擬選挙を通して、政治参加意識を高めた。	(1) 面談時間の確保が今後の課題である。 (2) 個々のニーズに対応したガイダンスの効果的な実施について検討する。 (3) 各学年でシチズンシップ教育を実施し、自主的に社会参加しようとする意欲を向上させる。	(学校運営協議会委員) ○生徒が昼休み等に気軽に先生と相談する姿を見た。個々に話せる雰囲気がいい。 ○段階的な進路ガイダンスを実施しながら高い進路実現を図ろうとしていることが高く評価できる。	○3年生の進路意識の高まりが見られている。 ○1,2年生の進路ガイダンスに生徒は真剣に取り組んでいる。 ○3年生の政治参加意識が高まった。	○生徒により高い志望を持たせる。 ○生徒に早い時期からの進路意識を育てる。
4 地域等との協働	○コミュニティ・スクールを活用し、地域との協働を図り、生徒の生きる力を育む。 ○地域貢献活動やボランティア活動に取り組む意欲や行動力を育成する。	○家庭や地域と協働し社会性を育成し開かれた学校づくりを推進する。	(1) コミュニティ・スクールの委員を通じ、さらに地域に活動を広げ、生徒がボランティア活動や地域に目が向くようにする。	(1) 生徒のボランティア活動や地域への活動人数などが増えたか。	(1) 学年や部活動、委員会活動として地域貢献を行った。	(1) 自主的に地域貢献する生徒の人数を増やす。	(学校運営協議会委員) ○コミュニティ・スクール初年度ということでどういう役割が期待されていくのか積極的に考えるようになった。	○逗子市主催のイベントに部活動単位で呼ばれる機会が増えた。	○地域貢献を行う生徒をさらに増やす。
5 学校管理 学校運営	○PDCAサイクルに従い、グループ、学年、教科が教育活動を常に見直し改善する。 ○コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の役割を明確化し、機能的に活用する。 ○学びを支え、安全で安心な教育環境の整備に努めるとともに事故・不祥事防止の徹底を図る。	○積極的な教育改善と、安全・安心で開かれた学校づくり ○コミュニティ・スクールの立ち上げと安定的運用を図る。	(1) アンケートなどを積極的に活用・分析し教育活動の効果や結果の検証を行う。 (2) コミュニティ・スクールの各部署の役割を明確にし地域と連携し、学校をサポートする。	(1) アンケートなどの結果で高まりがあったか。 (2) コミュニティ・スクールが機能的に学校を支援できたか。	(1) 学校運営協議会委員へのアンケート等を実施して中間評価を得た。 (2) 第1回学校運営協議会にてコミュニティ・スクールの概要を説明し、必要を説明し部会等の機能を説明した。また、ゲストティーチャーとして地域の教育力を活用し、学習への興味・関心を高めた。	(1) 年間の評価へ向け生徒による授業評価など総合的に評価をおこなう。 (2) 地域の教育力の活用を継続的に行い、生徒の確かな学力に結び付ける。	(学校運営協議会委員) ○開かれた学校作りの意欲を感じる。 ○PDCAサイクルを常に見直し改善している。現状を多様な角度からリサーチして結果を出している。	○コミュニティ・スクールと地域・家庭・学校が一体となるよう支援や評価を受ける土台ができた。	○コミュニティ・スクールの各部署の役割と機能を整理し実効力のあるものにする。 ○協議会委員により学校を知ってもらう手立てを講じる。